不定期刊行　　第641号　2018.03.04

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

雪崩サーチ＆レスキュー講習会のご案内

雪氷災害調査チーム（日本雪氷学会北海道支部）および雪崩事故防止研究会の主宰者の阿部幹雄さんから、表記講習会のご案内がありましたので、ご紹介します。

雪氷災害調査チームは、2007年度より社会的影響の大きな災害や人命に関わる災害について科学的調査を行い、記録にとどめ、広く一般に情報を公開する活動を行っている団体だ。また、雪崩事故防止研究会は、1991年に、雪崩と雪の科学的知識や雪崩遭難者の捜索救助、低体温症などの知識啓蒙を目的に設立された任意団体だ

両団体は雪崩に関して、これまでに「最新雪崩学入門」（1996/山と渓谷社）「決定版雪崩学」（2002/山と渓谷社）「山岳雪崩大全」（2015/山と渓谷社）、「雪崩教本」（2017/山と渓谷社）という4冊の出版物も発行している。雪崩に対する知見はここ数年大きく変わってきているのが、この4冊を見てもわかる。昨年発行された「雪崩教本」は栃木の雪崩事故を受けて、最新の雪崩や雪の科学とリスクマネジメントを、高校生にも理解できる雪崩の学習書というイメージで書かれた非常にわかりやすい本である。

その「雪崩教本」の最終章の「雪崩サーチアンドレスキュー」の執筆者が今回の講習会の講師であるマニュエル・ゲンシュワイン氏である。以下、阿部さんのお誘いの文章をそのまま引用する形で、みなさんにご紹介したい。高校現場で指導にあたる先生方には、一人でも多くの方に受講していただきたいという阿部さんの思いは私も共感する。

＊＊＊

【阿部さんからのメール】

すでにご承知かもしれませんが、スイスとカナダから講師を招聘し、国立登山研修所（富山県立山町）で雪崩サーチ＆レスキュー講習会を開催します。那須の雪崩事故が起きたので、日本に世界標準の雪崩サーチ＆レスキューの知識を導入するという試みです。「雪崩教本」（雪氷災害調査チーム＆雪崩事故防止研究会編）も那須の雪崩事故を意識して刊行しており、この講習会でテキストに使用します。講師に招聘したマニュエルは、筆者の一人です。高校の山岳部顧問をされている教員の方々にも、この講習会を受講していただきたいと思っています。とりわけ指導的立場にある大西さんには、ぜひ参加していただきたいのです。受講することのご検討のほど、よろしくお願い致します。定員15名で募集していますが、希望者が多ければ、受け入れるつもりでいます。マニュエルも人数が多くてもきちんと講習をすると言っています。講師のマニュエルは、毎年毎年、日本に来ることはできません。すでに3年連続北海道で講習をやったので、これから数シーズンは日本に来ないと思います。3 月は、アメリカ雪崩協会での講習会を行ってから、日本に来るそうです。マニュエルから直接学ぶ、貴重な機会になるはずです。

以下、案内。

公社）日本雪氷学会北信越支部と雪崩事故防止研究会は、スイスよりマニュエル・ゲンシュワイン氏、カナダより、カナダ雪崩協会プロフェッショナルメンバーであり、カナダ雪崩協会のAvSARAS（Avalanche Search and Rescue Advanced Skills）コースの講師&試験官である藤村知明氏を招聘し、国立登山研修所（富山県立山）で、雪崩サーチ＆

レスキュー講習会を開催することとなりました。
「雪崩サーチ＆レスキュー講習会　in　立山～マニュエル・ゲンシュワインの最新メソッド」日本雪氷学会北海道支部雪氷災害調査チームのホームページ
http://avalanche.seppyo.org/snow/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=77
「雪崩教本」（雪崩事故防止研究会・雪氷災害調査チーム編、山と渓谷社）の共著者であるマニュエル・ゲンシュワイン氏の雪崩サーチ&レスキューは、科学的知見に基づき改良されてきた方法でヨーロッパ、北米はじめ、世界各国で講習会を通じて普及され、ICAR（国際山岳救助委員会）の最良の雪崩救助の方法に関するワーキンググループが推奨する方法に採用されました。2017年冬よりICAR、UIAA(国際登攀登山連盟)、ENSA(フランス国立スキー登山学校)、SLF（スイス国立雪と雪崩研究所)、IFMGA(国際山岳ガイド協会)が後援するMountainsafety.info（http://mountainsafety.info）という独立した組織で開発、普及活動を行っています。事務局は、SLF（スイス国立雪と雪崩研究所)に置かれています。
講習会概要
　主催：公社）日本雪氷学会北信越支部・雪崩事故防止研究会
　講演：日本山岳ガイド協会、日本イカール委員会
　期間：平成30年3月20日（火）～22日（木）　3日間
　開催場所：国立登山研修所
　受講料：60,000円（宿泊・食費を含む）
　定員：15名　申し込み締め切り：3月12日（月）
　　※詳細は開催要綱を参照して下さい
　実行委員長：佐々木大輔（国際山岳ガイド、雪氷災害調査チーム）
　実行委員：山口悟（防災科学技術研究所、雪氷災害調査チーム）飯田肇（立山カルデラ博物館、阿部幹雄（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)、石田淳一（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム）
　実行委員会事務局：雪崩事故防止研究会事務局

編集子のひとりごと

　今回、講習会にお誘いいただいた阿部幹雄さんを僕は直接は知らない。氏の書で知るだけだ。高雪研でこのところ一緒に活動してきた上石勲さん、中村一樹さん、飯田肇さん、榊原健一さんらを通じて、今回のお誘いを阿部さんから直接メールで受けた。
　これまで、氏の著書にはこれまで随分啓発されてきていた。「生と死のミニヤ・コンガ」は心に染み渡る書であった。1981年の北海道山岳連盟のミニヤ・コンガ遠征。この遠征で8人の仲間を失い、かろうじて生還した阿部さんの生きる意味がそこにはつづられている。そして、それがその後の氏の雪崩に対する啓発活動につながっているのだと思う。
　僕自身、雪崩についてどれほど知っていると言えるのか？こんな僕が高校生を雪のフィールドに連れていく資格があるのか？雪崩について知れば知るほど怖さはある。この数か月、高雪研の活動を通して多くの新しいことを学ぶことができた。原理原則をしっかり知ったうえで、最新の知見を知ることが重要なのだと思う。その意味で、雪と雪崩についてはどこまで学んでも終わりはない。（大西　記）